



巻頭言 今年は4年に1度の市政の転換期

今年、安曇野市は4年に1度の市政の転換期です。市のリーダーである市長と、その市と善政競争を行う議会議員を選ぶ選挙が10月に行われます。私は議員を2期8年やらせてもらっていますが、いつも意識しているのは、**市政において議員の役割は何か？ 自分はその役割を果たしているか？ 市政において議会の役割は何か？ 今の議会はその機能を発揮しているか？**ということです。

また行政に対して、議員や議会として政策立案を促したり、市政のチェックをしてきましたが、行政がしっかりやらなければならないことがある一方で、行政ではこれ以上のことは難しいのかな、むしろ民間事業者だからできる役割もあるなと思い、去年は仲間とまちづくり会社を立ち上げました。安曇野のまちづくりは、市民、行政、議員、議会、市民活動団体、民間事業者など、様々な立場の人たちが、共にやっていくのだと思っています。

そんな中で、次の4年も自分は議員の仕事をしたいのか？ と自分でも問い続けてきました。まちづくり会社の方にシフトしたいという気持ちもありました。その上で、**次期4年も議会に挑戦しようという決断をしました。市政における議員や議会の役割の大きさ**

を感じているからです。もう少し頑張れば議会を今まで以上に機能発揮させることができる。そう思ったからです。数の力で決まっていくことが多い政治の中で、私は会派に属していなくても同僚議員と対話を重ね、共感し合うことで政治をつくっていく、そんな共感の政治をやりたい。そう思えた、この2期目でもありました。これを足掛かりに、次の4年ではもっとそれをやっていきます。



最後に市民のみなさんに。「市民参画」や「市民自治」という言葉があります。まちづくりを行政や議員たちに任せきりにするのではなく、自ら発言、行動し、自分たちの場を自分たちで創っていくことを一緒にやりませんか。昨年大人気のマンガ「鬼滅の刃」に「生殺与奪（せいさつよだつ）を他人に任せるな」というセリフがありました。また私の好きな岡庭元阿智村村長の言葉に「行政がサービス業だなんて言うのは間違いだ。住民はお客で



みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政が市民にとって身近になるために、虹（＝Rainbow レインボウ）の架け橋となるよう活動報告をお届けします。望三郎の活動はブログやフェイスブックでもどうぞ。→「増田望三郎」で検索。

はない。誇りを持ち、自分で学んで問題を解決する住民を、行政が支援する。それが住民自治だ。」があります。

自分たちが創る「場」は、家族や夫婦、住んでいる地域、旧町村の枠、安曇野市全体など、捉える範囲はそれぞれですが、今までの場から少し踏み出して、そこに見えてくる課題に対して、自ら考え、発言し、解決のための和（輪）を作り、行動する。4年に一度の選挙を通じて、一人一人が、この安曇野市を創っていく人になる、そんな市政の転換期

参考動画）政策提言のできる議会に（2021年の抱負を語っています）



サポーターからの応援メッセージその28



たかあき
遠藤孝昭さん（穂高／株式会社トビムシ）

「市議会議員なんて、誰がなっても一緒では？」という声を聞くことがあります。もちろんそんなことはないのですが、そう思わせてしまうのは、まだ余裕があって「まちづくり」が他人事だからなのかもしれません。しかし、これからの100年で人口が7000万人も減少すると推測される日本では、今後様々な課題が顕在化していく大変な時代を迎えます。課題は増えるのに予算が減る中で、限られた予算をどのように配分するのか、市民一人ひとりが「まちづくり」を真剣に考えなくてはなりません。そして合意形成を図るために、行政も議員も今まで以上に丁寧な説明が求められます。また、この難しい時代に対応するためには、空間軸と時間軸の視座を持つことが大切で、身近な問題を取り上げながらも市全体を考え、目先の問題に対応しながらも将来のことを考える必要があります。知り合ってから4年余り、望さんの議員活動に注目してきました。地域の問題を取り上げながらも、望さんの視線は安曇野市全体と将来を見えています。また、チラシやSNSなど様々な手段を使ってわかりやすく丁寧に活動や意図を説明する姿勢に、一市民として強く共感します。情熱と行動力を兼ね備えた望さんの今後ますますのご活躍を心から期待しています。

●プロフィール
大分県出身 52 歳。東京経由で安曇野に移住し 18 年目に。三郷小倉に妻と子ども、妻の両親の3世代で暮らす。自給の農業をしながら、出会いと体験の宿『安曇野地球宿（ちきゅうやど）』を経営。安曇野市議、現在2期目。好きな言葉は『出会い、共感、展開』

となる一年にしていきたいと思っています。

2021年度の予算案を可決

安曇野市の令和3年度予算総額は411億円です。コロナの影響もあり、歳入における市の税収は約11億円の減額です。一方歳出は事業者への支援として制度資金の貸付で25億円（これは年度末に返済を受ける）などもあり、400億円越えの大型予算となっています。新年度予算では国のコロナ関連地方創生臨時交付金を充てにした事業者支援の補正予算も生まれ、市民のみなさんの生活、事業経営を支えています。詳細は市のホームページをご覧ください。

3月定例会の一般質問

《質問 1》身近な里山を体験できる黒沢洞合自然公園の更なる活用を

【解説】三郷小倉にある黒沢洞合自然公園は、身近な里山の自然を感じられる公園です。コロナ禍で屋外や野外での活動の需要が高まる中で、この自然公園の価値を改めて捉え直し、更なる活用を考えていきたいと思います。

望市議 市が捉えている公園の価値は。

教育長 地元中学生のアイデアを取り入れてきた経緯、在来植物の保全など、現地の自然環境を生かしたビオトープ型公園である。

望市議 市が目指す、たくましい安曇野の子どもを育む場として、改めて洞合公園のランドデザインを描き、より広い活用を考えていけないか。

教育長 里山の動植物や川のせせらぎを直に体験できる自然公園を、更に多くの方々に知ってほしい。小中学生が自然観察する機会もやっていくといい。

市長 市民の財産のみならず、全国に発信できる自然公園になればいい。地域の皆さんに積極的に関わってもらい公園を生かしたい。



黒沢洞合自然公園で走り回る子どもたち

望市議 公園と隣接する民地山林に太陽光発電パネルが設置される計画がある。パネルができれば、自然公園の価値が失われてしまう。洞合公園は川や山林など周辺環境も含めてそ

の価値があり、魅力を発揮するのでは。

市長 貴重な資源の一つであることには間違いない。開発事業は土地利用条例に基づいて適正に可否を判断する。手を加えれば環境は当然変化する。慎重に取り組む課題だ。

《質問 2》活力ある学校づくりは、特徴を強く出して

【解説】少子化に向かう中で、本市でも学校の活力をどう維持するか、生み出していくかという議論を教育委員会が行っています。私は既成の枠にとらわれない学校改革が必要だと考えます。市が3年度発表する小中学校の将来構想は要注目です。

望市議 学校改革はどのようなチャレンジをするのか。

市長 それぞれの学校が個性を持って魅力のある学校づくりを進めることが大切な時代に入っている。それぞれの個性、能力を伸ばした教育をしてほしいと教育委員会にお願いしている。

教育長 学校による特徴の差はあって当然、それぞれの特色や魅力を高めてほしいが、目指す市の理念や目標を共有して、どの学校も皆様方のご協力で整ってきた教育環境で、遜色のない義務教育を受け、一人一人の個性や能力が最大限伸ばせる教育に尽力していく。

《質問 3》北小倉民間事業者の一般廃棄物処理業の許可更新は適正か

【解説】北小倉にある民間の廃棄物処理施設では、下水道処理に対して不可解な点があります。敷地に降った雨は廃材に触れて汚水になり、除害処理がされて下水道に流れるのですが、降雨量に対し、下水道量が少ないのです。安曇野の地下水を守る観点から行政の対応を問いました。

望市議 雨量に比べて下水道量が少なすぎ

る。廃材に触れて汚水となっているが、どこに行っただのか。地下浸透すれば地下水に影響を及ぼすが。

市長 県とも連携をし、法に基づく立入検査を定期的の実施し、処理状況を含めて確認を継続する。

※住民の調査データより
令和2年10月7～10日まで4日間のデータ

	下水道使用量 (㎡)	穂高アメダスの降水量 (mm)	民間施設敷地内雨量 推計値(㎡)
10月07日		8.5	17
10月08日	4	35	70
10月09日		1.5	3
10月10日		24.5	49
合計	4	69.5	139

敷地内雨量は4日間合計 139㎡（推計値）
それに対して4㎡しか下水道に流れていない

安曇野市民まちづくりトーク中止のご案内

議会報告を兼ねて安曇野のまちづくりを市民と議員が車座で話し合う「安曇野市民まちづくりトーク」はコロナ感染拡大の状況が見通せないため、今回も中止いたします。ご了承ください。尚、私望三郎議員との個別の懇談・相談を面談あるいはオンラインでお受けしていますので、お気軽にご連絡ください。

増田望三郎 携帯 080-5486-6111

boetu@d6.dion.ne.jp

望三郎議員が市民から相談を受けている事例
・三郷児童クラブに希望する家庭が入れないことについての相談

・地域の砂利採取に関する生活不安について
・不登校支援について
・黒沢洞合自然公園の隣接地への太陽光パネル設置について

・ワーケーション&テレワーク推進について
その他様々な課題、問題について相談を頂いています。市民のみなさんに寄り添い、行政の考えも質しながら、解決に向けて一歩でも近づいていけるよう尽力してまいります。

望三郎市議が行く!!
第29話
『議会もICT化へ!』
出演・望市議 にじと ピース

今、安曇野市議会は議会のICT化の研究を進めているよ
望市議 にじと ピース
どんなメリットがあるの?

まず大量の資料印刷が無くなるよ
環境への配慮や印刷製本の手間も無くなる
ペーパーレスは全国的な流れだよ

今まで時間とお金をかけて行っていた視察や研修もオンラインでできるようになったよ
Zoom

昨年度はコロナで議会報告会に市民参加ができなかったよね
オンラインでつなげばリアルタイムでやりとりできるよ
そうか～市民の声をしっかりと聴いてもらえるんだね

ICT化で議会機能をバージョンアップしていくよ
議会頑張ります!